

# 東京バッハ合唱団 月報

[第 648 号] 2016 年 6 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101

Tel: 03-3290-5731 Fax 専用: 03-3290-5732 郵便振替: 00190-3- 47604

Mail: office@bachchor-tokyo.jp http://bachchor-tokyo.jp/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No. 648

June 2016

5-17-21-101 Funabashi,  
Setagaya-ku, Tokyo

## 急告！

## 日本語版《口短調ミサ曲》、再演を決定

大村 恵美子（主宰者）

今年度の2つの定演(5月の113回、12月の114回)が具体化し、つづく3年間の演奏予定を、皆さまにも早くお知らせしたく、主宰者の原案をこの月報に公表して、そのフィードバックを考慮しながら、団の総意をまとめようとしたのが、昨日5月14日の団員相談会でした。今年に入ってから幾つかのイベントが入ったりして、今後の演奏計画が少しおくれ気味になり、5月相談会までに、私の原案を呼びかける6月号の発行が、間に合わなかったことが、思わぬ団員の方向づけをひき起こすことになったのです。

2011年12月3日(第106定演、杉並公会堂)に、“世界初演”として大成功を博し、周囲に衝撃をもたらした「日本語歌詞によるバッハ《口短調ミサ曲》」を、早くも来年2017年末までに再演しよう——これが、その内容でした。

ラテン語テキストで、世界中に仰がれていたあの《口短調ミサ曲》を、私が意を決して日本語に変え、定演に敢えて持ち込んだ結果、エキュメニズムの真意の普及の恩恵に浴しながら、非難が上がるどころか、大変な好評を勝ち得たのでした。ちょうどこの準備の期間に、ベーレンライター社が、装いも新たにひとつの作品と結論づけられた《口短調ミサ曲》の楽譜を発行し(新バッハ全集・再訂版、2010年刊)、私たちも、打って出た「日本語歌詞」に加えて、新刊譜による初の演奏に携わることができたのでした。詳しいことはここではくり返せませんが、その後このエキュメニズムの方向は、さらに加速化し、私たちの幸運なエポックメイキングな演奏は、さらに重く貴い意味をまとうされるようになりました(去る4月29日に「日本エキュメニカル功労賞」を戴いたこと【右掲、切抜き参照】、またその意義については、先月号月報の小海基氏の報告記事でお読みいただいとおりです。新バッハ全集・再訂版の使用に関しては、大村健二「バッハ父子の息吹に触れる」月報2011年3月号、『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み』p.133参照)。

来年2017年は、この合唱団の創立55周年記念に加えて、マルティン・ルターの宗教改革から500周年、プロテスタント側の「エキュメニズム」の出发点とな

ったローザンヌ第1回信仰職制世界会議(1927)から90周年となります(小海基「バッハのエキュメニズム」月報2011年8月号、同上書p.139参照)。

このような、重い記念にみちた2017年に、再評価で脚光を浴びたこの作品を放置していてよいものだろうか? 昨日の会議で、この思いが、相談会メンバーの討論の一致にまで押し上げてしまったのです。この作品は、当合唱団では、テキストがラテン語であり、しかもバッハ畢生の最重要作品であるということで、慎重に近づいたあげく、やっと25年経ってから初演となり、その後も記念の年のメルクマールとして、4回上演されています。

- ①創立25周年(1987年、銀座・中央会館、62定演)
- ②創立30周年(1992年、新宿・都市センターホール、72定演)
- ③創立40周年(2002年、石橋メモリアルホール、91定演。以上3公演はラテン語原詞による)
- ④創立50周年(2011年、杉並公会堂、106定演)

ここにまた、⑤創立55周年(2017年、杉並公会堂予定、115定演)とつけ加えようという考えです。

初演の62定演のときも、演奏し終えたその日から、主宰者ほか多くの人々が、すぐにでも再演したいとい

カトリック新聞 2016年5月15日



日本エキュメニカル協会(理事長・松山與志雄)日本基督教団退牧師は4月29日、「エキュメニズムの『集い』を、東京・千代田区のイブンス会館ホールで開いた。集いの中で同協会は、今年のエキュメニカル功労団体として、東京・世田谷区に事務局を置く「東京バッハ合唱団」を顕彰した。同合唱団は主宰者の大村恵美子さんが1962年に創立し、以後、バッハの教典ファンタジーを中心とする定期的な演奏活動を続けてきた。聴衆が歌を聞き、同時に意味も理解でき

るよう、国内公演では原則として邦歌歌詞で演奏し、「バッハ日本語上演の啓蒙と普及」を目指している。

大村さんは授賞式後に講演し、1960年前後、フランスのストラスブールに音楽を学ぶために留学した際の経験や、バッハの音楽に心を奪われて帰国後すぐに東京バッハ合唱団を創立した経緯などを話した。バッハがルター派教会の音楽監督でありながら、カトリック圏の音楽を尊敬し、「謙虚に学んだ」とについて「エキュメニカルの真の姿は思われる」と語った。

エキュメニカル功労賞は今回が22回目となる。エキュメニズムやエキュメニカルは、教会一致の運動を指す用語。

う欲求に駆られました。106 定演、すなわち日本語版初演のときも同じように、直後からまた、日本語版を早く再演したい、と思われました。しかし、例年のようにくり返されていた《クリスマス・オラトリオ》をとり戻したい、という声も繁く、私が今月号の月報にのせるためにまとめた演奏予定の私案 [右段に掲載] では、《クリスマス・オラトリオ》の復活を試みたのですが、昨 14 日の団員たちの総意は、《ロ短調》のほうに傾きました。そうしてみると、ごく自然のなりゆきが顕在化したようにも思われます。

《ロ短調ミサ曲》がどこかで企画発表されると、他の合唱団からも、また一介の音楽愛好家と任じていた方々からも、臨時にかけつけて合唱に加わる例が、非常に多いことは、衆目の認めるところ。この際ぜひ、再訂版による新しい楽譜 (ベーレンライター社) で、そして 2012 年に世界中に初声 (うぶごえ) を知らしめた日本語で、ご参加くださる方を募ります。バッハの作品の中でも、ずば抜けて難しい歌唱技術と深遠な内容、それが私たちのこの合唱団では、入団時のオーディションもないのです。どうしてもついてゆけなくなる方は、自主的に聴衆に立場を変える例もあったようですが、まずは新世界への挑戦、あなた方お一人々々にとって、こんな美しい生き方はまたとないのでは？

この呼びかけに続く、私の 3 年計画は、《クリスマス・オラトリオ》が《ロ短調ミサ曲》に変えられただけの、それほど矛盾したものではないと信じますので、そのまま次に掲載し、併せて耳傾けてくださることを期待申し上げます。(2016 年 5 月 15 日)

## ■今後 3 年間の演奏計画 (2017 年 - 2019 年)

### バッハは呻き、ためらい、嘆き、絶る

大村 恵美子 (主宰者)

創立 50 周年を期して、バッハの 4 大合唱作品 (マタイ、ヨハネ、クリスマス・オラトリオ、ロ短調ミサ曲) に挑んだわれわれは、バッハの生涯の極限の高みを提示したあと、同時的にたたきつけられた、わが国の 3・11 大災害から、連続的な、全国土にひろがる雨、風、地震などの、対応に追われることになった。

私たちは、4 大作品連続コンサートが完了するやいなや、南相馬に駆けつけて第 112 回定期演奏会を、被災地で、住民の方々と協演することができ、大きな感謝に包まれた (2015 年 8 月)。しかし、東日本の荒廃は想定不可能の再生に、長い将来をひろく蔽って直面しており、重ねてつぎつぎと本土各地の、火山噴火、洪水、竜巻 etc. に狙われはじめている。

人類が与えられた地球に、感謝して生きつづけたい私たちは、何をすべきなのだろう。私も、とうに晩年期を迎え、東京バッハ合唱団の今後の見通しに、日夜思いをめぐらしているところだが、お手本となる J・S・バッハの生涯は、このような図式として把握されよう。

1685 年…誕生。

1715 年…30 歳、ヴァイマルでオルガニスト、宮廷に仕えて作曲・演奏に生きる。

1723 年…38 歳、ライプツィヒで教会音楽総監督の実をあげてゆく。

1750 年…死去 (65 歳)。

こんなに、キリのよい生涯に恵まれた人も珍しい。

### ■半世紀の演奏で積み残した、重苦しく暗い曲

さて私たちの今後は、必然的に、創始者としての私自身の指針に左右される。2012 年、合唱団創立 50 周年を迎える。2015 年、南相馬市で 112 定演を開催。本年 5 月、113 定演「日常生活のバッハ」開催 (カンタータ BWV 148、40、16、192)。同 12 月、114 定演「バッハの家庭の音楽」(「アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳」+BWV 14、82、140) を予定。5 月初旬現在、ここまでは具体化の域にあるが、社会状態としては、自然災害も日本だけにとどまることなく、古今未曾有の惨状は全地球に及び、その上さらに、「イスラム国」などの、国境を越えた過激なテロ集団が、一般市民をゲリラ的に襲い出してきた。もうこうなるとは、綺麗ごととはすべて偽善に見えてくる。“……死ぬ”の欲求がもっとも真正なものとしてまかり通りつつある。

一方、主宰者としての私が、半世紀を通して、世に立ち向かって来たのは、バッハの普遍性、楽天性、地上生活の肯定性、天国の蓋然性等の、明るい志向によるものだった。なんども語ってきたように、私は楽し

キリスト新聞 2015年5月21日

## 教会 バッハ作品の卓抜した魅力を証し

### 東京バッハ合唱団にエキユメニカル功労賞

日本エキユメニカル協会 (JEA) 松山與志雄理事 (長) が毎年顕彰している「エキユメニカル功労賞」の 22 回目の顕彰者に、東京バッハ合唱団 (東京都世田谷区、大村恵美子主宰) が選ばれた。JEA が制定する「エキユメニカルの日」の 4 月 29 日、東京・四谷の岐部ホールで顕彰式が行われた。

東京バッハ合唱団は、J・S・バッハの合唱曲を日本語訳詞で歌うアマチュア合唱団。教会カンタータを中心に、バッハの合唱作品を研究し、ソリストやオーケストラとともに演奏する団体として、指揮者である大村氏の呼び掛けで 1962 年に発足した。同氏の訳詞による日本語演奏を原則として、ライプツィヒのトーマス教会などドイツ各地でも公演。2011、14 年には、同合唱団の創立 50 周年を記念し、バッハ 4 大作品 (マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、クリスマス・オラトリオ、ロ短調ミサ曲) の日本語連続演奏を行った。

また、大村氏は 00 年か

ら、ドイツ楽譜出版の老舗 フライトコプフ社の底本によるバッハ・カンタータの日本語版楽譜を刊行している (15 年現在 67 曲既刊)。

顕彰式で大村氏は「東京バッハ合唱団の半世紀、バッハの寛容さに導かれて」と題して講演。半世紀にわたって公演を続けられてきたことは「バッハ作品の卓抜した魅力の証しに違いない」と強調した。続いて同氏の指揮により、カンタータ第 192 番 (ああ、感謝せん 神に) の第 1 楽曲を披露した。写真下。

東京バッハ合唱団の第 13 回定期演奏会が 5 月 28 日、午後 2 時から府中の森芸術劇場ウィーンホール (府中市浅間町) で開催される。チケットは前売り 3500 円 (当日 4 千円)。全席自由。問い合わせは合唱団事務局 (☎03・3290・5731) まで。

同合唱団では随時団員も募集している。入団金は 3 千円。団費は月額 5 千円。詳細は同合唱団のホームページ (http://bachchor-tokyo.jp) を参照。



い《クリスマス・オラトリオ》を、毎年のように年末の定演としながら、《受難曲》は数回しか定演にとり上げなかった。カンタータ上演も、罪の懲戒や現世の苦難、それに対する怨恨などを主題とするもの、複雑すぎる宗教教義や倫理観などに関わるものには、消極的だった。その当然の結果、まだ演奏されないで残っている作品は、重苦しく暗い内容のものが多い。

生来、楽観的で人を信じやすい性向の私は、これまでの合唱団活動のすべてに、喜びを感じ、大きな感謝ばかりしかなかった。しかし、合唱曲よりも独唱曲が多く、あまり（ほとんど）有名でもなく、関心の寄せにくい、未演奏の数十曲を、私の退陣までに、どのように扱えばよいだろうか。

この半世紀の間に、私がとりあげてきたカンタータ作品を列挙すれば一目瞭然であるが、50周年記念誌『東京バッハ合唱団 半世紀の歩み』に掲載の「演奏曲目一覧」では、カンタータだけで10ページにも及ぶ。ここに転載するわけにもいかないので、200曲中128曲を上演、と数字だけを掲げておく。「未演奏の数十曲」は、60数曲となろう。

[上掲書は残部僅少。ただし、2014年3月の110定演《ヨハネ受難曲》プログラムに、それまでの既演曲一覧が載っています。送料180円でお送りしますので、ご請求ください]

## ■ カンタータの2回の選別機会

これまでに、約200曲の全カンタータから選別する機会は、2回あった。1度目は1994年発行の新書版『バッハの音楽的宇宙』（丸善ライブラリー）に取りあげて紹介した71曲の声楽曲（カンタータ以外を含む）。2度目は2000年から刊行開始の楽譜とCD『バッハ・カンタータ50曲選』（合唱団出版局発行）の50曲。この50曲については、様々な機会にお目にとまるだろうが、前者の丸善ライブラリーは、不本意ながら絶版になってしまっているので、取りあげた作品のBWV番号のみを掲げさせて戴くことにする。

### 『バッハの音楽的宇宙』で取りあげた作品

（うち、「50曲選」と重なるものをゴシック書体で示し、後述の「楽譜全集への追加」作品と重なるものは斜体とした）：BWV

1、4、6、8、9、10、12、18、19、21、23、24、26、27、29、31、36、38、39、42、45、46、51、56、65、66、67、68、71、75、76、78、79、80、82、84、85、90、100、104、106、110、116、131、132、140、147、150、156、158、163、172、182、186、187、190、196、199、208（215までは世俗カンタータ）、211、212、215、225（229まではモテット）、226、227、228、229、232（ロ短調ミサ曲）、243（マニフィカト）、244（マタイ受難曲）、245（ヨハネ受難曲）、248（クリスマス・オラトリオ）、以上71曲。

その後（2008年以降）も楽譜は、カンタータ約200曲

の全曲発行を目ざし、「50曲選」につづけて、実演ごとに新しい楽譜をつけ加え、現在、追加17曲を加えた既刊67曲に達している。

### 「バッハ・カンタータ楽譜全集」（「50選」への追加）

（BWV番号順。丸括弧で発行年を示した）

- BWV 17 《感謝ささげ ほめ歌う者に》（2010）
- BWV 52 《悪しきこの世よ なれを頼まじ》（2010）
- BWV 62 《いざ来たりませ 世の救い主》II（2014）
- BWV 65 《もろびとシバより来たりて》（2007）
- BWV 67 《留めよ 心にイエスを》（2008）
- BWV 75 《貧しき者は食し》（2008）
- BWV 81 《主イエス眠り いかによすべき》（2015）
- BWV 92 《わが心 思い 神にゆだねたり》（2015）
- BWV 97 《わがすべてのわざ 主に導かる》（2014）
- BWV 102 《主の目は信仰を見たもう》（2008）
- BWV 111 《み心は つねに成し遂げらる》（2011）
- BWV 122 《新たのみどり児 小さきわがイエスは》（2009）
- BWV 148 《み名の栄光を讃えよ》（2016）
- BWV 169 《神にのみ わが心献げん》（2008）
- BWV 182 《あまつ君を喜び迎えん》（2008）
- BWV 191 《高き天なる神に》  
[ラテン語カンタータ]（2008）
- BWV 214 《太鼓よ鳴れ ラッパよ響け》  
[世俗カンタータ]（2008）

今年の113定演（2016年5月28日）では、4曲とも楽譜は既刊のものである（BWV 16、40、148、192）。12月の114定演では、BWV 14《かたえに主いまさずば》（追加18曲目）、BWV 82《われ足れり》（同19曲目）の2曲を新しく発行、BWV 140《目覚めよと呼ばわる》は「50曲選」の既刊である。これら3カンタータに《アンナ・マクダレーナの音楽帳》（「クラヴィーア小曲集」第2巻）から10曲の声楽小品（BWV 508-518）を加えるが、これは、器楽曲と切りはなした形で私たちの出版局で発行できるかどうか版元（ベーレンライター社）と交渉中だが、著作権取得や体裁に問題があって、これは現在、出版譜としては予定に加えていない。

## ■ 今後3年間の演奏計画、楽譜制作との関連で

さて、これから、2017年から3年分の、大村案を、そろそろ皆様にご披露してみようと思う。内容がこみ入るので、まずこの3年間の第115回から第120回の定演に新しく必要となる楽譜から、話を始めることにしよう。まず、次ページの表「定期演奏会計画」をご覧ください。

[以下の記述は、急遽、来年2017年に《ロ短調ミサ曲》を取りあげることとした決定の、直前に書かれたことを前提にお読みください。1年ずつ先送りと考えていただいて結構です]

《クリスマス・オラトリオ》と《マニフィカト》は、従来どおりのコピー譜を用いることとすると、新楽譜

定期演奏会計画（2017～2019年）大村恵美子案

◆2017年・前期【115定演】「敵を赦し、天では神の子、すべての友に」

楽譜	作品番号	タイトル	教会暦	バッハ初演	当団の演奏歴	演奏時間
×	BWV 178	主 われらにいまさずば	三一後 8	1724.7.30	15 定演	20 分
×	BWV 176	抗い また怯むは 心の常	三一節	1725.5.27	<未演>	13 分
×	BWV 177	呼びまつる イェスよ	三一後 4	1732.7.6	<未演>	28 分
50	BWV 1	あしたに輝く たえなる星よ	受胎告知	1725.3.25	1 回公演, 15, 69, 93 定演	24 分
編成: SATB, hn2, ob2, oba, obo2, 弦/通奏低音						計 85 分

(楽譜欄の凡例…… ×: 未刊、50: 50 曲選、△: 自家版コピー譜)

◇2017年・後期【116定演】「年、改まり」

×	BWV 28	ほむべきかな 年終り	降誕節後 1	1725.12.30	84 定演	20 分
	BWV 248	クリスマス・オラトリオ(前半)				
△	(WO-I)	第 1 部: 喜べや このよき日を	降誕祭 1	1734.12.25	定演 (計 20 回)	60 分
△	(WO-II)	第 2 部: この地に野宿して 夜	降誕祭 2	1734.12.26		
△	(WO-III)	第 3 部: あまつ君よ 聞きたまえ	降誕祭 3	1734.12.27		
編成: SATB, hn2, tp3, tm, tb3, fl2, ob2, obo2, obo3, 弦/通奏低音						計 80 分

◆2018年・前期【117定演】「呻き、ためらい、嘆き、縋るバッハ」

×	BWV 109	われは信ず わが主よ 助けたまえ	三一後 21	1723.10.17	<未演>	25 分
×	BWV 166	いずこへ 主よ 行きたもう	復活後 4	1715.6.16?	<未演>	17 分
×	BWV 188	わが堅き望み まことなる神にあり	三一後 21	1728.10.17	<未演>	20 分
×	BWV 79	神はわが光 わが盾	宗教改革	1725.10.31	1 回公演, 26 定演	20 分
編成: SATB, hn2, fl2, tm, ob2, obo, 弦/通奏低音						計 82 分

◇2018年・後期【118定演】「地に恵みと真(まこと)」

50	BWV 110	喜び 笑い あふれ	降誕祭 1	1725.12.25	52, 82 定演	25 分
	BWV 248	クリスマス・オラトリオ(後半)				
△	(WO-IV)	第 4 部: ささげん ほめ歌を	新年	1735.1.1	定演 (計 15 回)	52 分
△	(WO-V)	第 5 部: 栄光を 主に歌わん	新年後 1	1735.1.2		
△	(WO-VI)	第 6 部: 主よ おごれるあだに	顕現祭	1735.1.6		
編成: SATB, tp3, tm, fl, ob3, obo2, obo3, 弦/通奏低音						計 77 分

◆2019年・前期【119定演】「バッハの苦悩・恐怖—希求」

×	BWV 60	いかづちの言葉 おおなんじ永遠よ(2)	三一後 24	1723.11.7	<未演>	15 分
×	BWV 20	いかづちの言葉 おおなんじ永遠よ(1)	三一後 1	1724.6.11	<未演>	26 分
×	BWV 146	あまたの苦しみを経て 入るべし	復活後 3	1726.5.12	<未演>	40 分
50	BWV 1	あしたに輝く たえなる星よ	受胎告知	1725.3.25	1 回公演, 15, 69, 93 定演	25 分
編成: SATB, tp, hn2, fl, ob3, obo2, obo3, 弦/通奏低音						計 106 分

◇2019年・後期【120定演】「地に満てる平和」

50	BWV 63	彫り刻め この日	降誕祭 1	1714.12.25	48, 74 定演	20 分
△	BWV 243	マニフィカト(挿入曲付き)	エリサベト訪問	1733.7.2	27, 70, 74, 92 定演	40 分
編成: tp4, tm, fl2, ob3, obo2, 弦/通奏低音						計 60 分

の必要なカンタータは 11 曲(演奏順に BWV 178、176、177、28、109、166、188、79、60、20、146)である。「50 曲選」の 50 曲、追加既刊の 19 曲に、さらにこの 11 曲が加わると、80 曲に達する。

120 定演(2019 年末予定)を終わるとなると、私は 87 歳である。その時点でも、バッハのカンタータ楽譜は、100 曲以上が未刊のままに残っている——そう考えれば、その量の膨大さがいかに想像を絶するものであるかが感じられるであろう。

でも、死ぬまでに全カンタータを演奏し、全楽譜を刊行しようという野望は、私は「50 曲選」(全部の 4 分の 1)を仕上げた 2004 年の時点で、はっきりと否定していた。今は、寿命などは考えに入れず、私の平常

のペースで合唱団の演奏活動を保ち、それを支えるための楽譜発行を、準備するだけである。

残ったカンタータの内容を、仔細に味わいつづけている毎日で分かったことは、年をとるにつれて、若い頃や、働きざかりの中年の頃には見えなかった人生が、プラスの形で見えてきて、与えられたものを、心から納得して受けとることができるようになる、ということである。私は、若い頃からすでに、青春は耐えて過ぎ去らせるものだと感じていた。そして、お手本となるような高齢の人格者たちが、伝えてくれる、円熟の伸びやかさに、ずっと深く憧れを抱きつづけていた。

これからの 3 年間(2017-19 年)に、私が選び、定演ごとに名づけてみたいタイトルを並べてみると:

115 定演 (2017 年前期)

……「敵を赦し、天では神の子、すべての友に」

116 定演 (2017 年後期) ……「年、改まり」

117 定演 (2018 年前期)

……「呻き、ためらい、嘆き、縋るバッハ」

118 定演 (2018 年後期) ……「地に恵みと真(まこと)」

119 定演 (2019 年前期)

……「バッハの苦悩・恐怖—希求」

120 定演 (2019 年後期) ……「地に満てる平和」

## ■ バッハは呻き、ためらい、嘆き、縋(すが)る

この3年間のそれぞれの後期は、《クリスマス・オラトリオ》前半・後半と《マニフィカト》に、各1曲ずつのクリスマス・カンタータが加わって、年末にふさわしい、聴衆にもなじみのあるものばかりである。

それに対し、前期の中では、私が昔から心にわだかまっていた問題の糾明が、なるべくはっきりさせられようと、企画される。それは、バッハが愛妻マリア・バルバラを失くし(病歿)、すぐ有能なアシスタントたるアンナ・マクダレーナと再婚して、ライプツィヒに乗り込んでいった1723年からの、緊張した数年間であるが、そこではバッハが異常なほどのエネルギーで礼拝のためのカンタータを作りためており、生活の中で心を痛めるバッハの本音が、なまなましく、リアルに響いて来るのだ。とくに注目すべきは、《いかづちの言葉 おお なんじ永遠よ》というコラル・カンタータが、1723年11月(BWV 60)と1724年6月(BWV 20)と、わずか半年で2回もとり上げられて、それぞれに丹念な創意が注がれ、類似の内容をもつ多くの作品の中でも群を抜いた迫真力で聞く者を揺さぶるのである。こんなに強烈な音楽を、定演に入れることがあるだろうか、迷いながら、ついに2曲とも50数年放置していたのだが、現在、2011年3月11日に突きつけられた災害の恐怖は、私たちの現生安住をズタズタにして、感覚を目覚ましてくれたのだった。仏教では生・老・病・死と言うが、その実感が他人ごとでない強さで各自認められるようになってきたのである。

このバッハのBWV 60、20の2曲は、バッハの生涯史の一大転機である、ライプツィヒ移転に関連しているようだ。私は、人生のダメージでも最大の悲劇のひとつが、愛する子を失う親の立場だと思っただが、バッハは、多産な人間の中でもとびきり悲劇的な体験をした人で(p.6の表「J.S. バッハの子どもたち」参照)、22歳から35歳の間、愛妻バルバラとの間に生まれた子が7人、そのうち早死にした(0-5歳)もの3人。その後バルバラの突然の病死後、再婚したアンナ・マクダレーナとの、36歳からの人生の間に生まれた子が13人、そのうち早死にしたもの7人。ライプツィヒ初期には、集中して4人も乳幼児を葬っている。

私たちも、このバッハの悲しみの深さを、被災地や地球各地の膨大な数の難民のニュースを見聞きして、

日々、自分の心に重く反復している。過去2年でバッハのあるべき日常生活を辿ってきたあと、117定演で、「呻き、ためらい、嘆き、縋るバッハ」を心の葛藤として表現し、119定演で、にもかかわらず「バッハの苦悩・恐怖—希求」を、前進する、健気で積極的な行動として表現しようとするが、バッハ自身は、もう早くからすでに、愛し愛される、豊かな地上での「天の国」を、あわせて知っていた人なのだった。

私が、カンタータの中のパラダイスの1点と見なしている、BWV 1《あしたに輝く たえなる星よ》は、なんと、あの《いかづちの言葉 おお なんじ永遠よ》の苦悩の1723年、1724年の2曲の、翌1725年春に、作曲しているのである。そんなわけで、私はこのBWV 1を、2017年(前)の115定演と、2019年(前)の119定演とに、フィナーレとして2回置くことにしている。

〈人生はこわい〉・〈人生はしあわせ〉、この両極を体験し、ひとと共感できる人間こそ、理想の人間といえるのではないか。〈了〉

## 2017年、日本語版《口短調ミサ曲》再演 !!

### ＝参加団員募集＝

巻頭「急告」に記されたとおり、来年の創立55周年は、内外の合唱界に衝撃をあたえた「《口短調ミサ曲》日本語版」の再演をもって記念することとなりました。

あわせて宗教改革500周年の年、バッハの老舗合唱団としては、敢えてルターの詩によるカンタータを撰ばず、ミサ通常文をテキストとした、バッハ畢生のミサ曲をもって、作曲家自身が極めた“普遍”の魂を歌い上げようとしています。ぜひご参加ください。

○上演時期：2017年10月末ころ(杉並公会堂、予定)

○練習開始：2016年9月3日(土)、5日(月)より。

年末の第114回定演(次ページ下段に詳細)の曲目と並行して、音取り練習。(この定演にも出演できます)

○募集人数：SI・SH・A・T・B、各10名程度

○応募資格：バッハ音楽が好きな方・合唱経験不問(易しくありませんが、各パートの音取りCDを用意、また懇切なパート練習も行う予定)。原語上演経験者歓迎。

○練習時間と会場(どちらにも出席可)

・土曜練習……15:30-17:30、荻窪教会

・月曜練習……18:30-20:30、目白聖公会

○入団金3000円、団費月額5000円

○参加申し込み：ハガキ/FAX/メール/電話等にて、事務曲あてに連絡。書面の場合は、①氏名、②声部、③住所、④連絡先(電話番号/メールアドレス)、⑤メッセージを一言(何でも)を記入。

○問合せ/申込み=東京バッハ合唱団事務局。

使用楽譜のことなど、お気軽にお問い合わせください。

・〒156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101

・Tel: 03-3290-5731 ・Mail: office@bachchor-tokyo.jp

・Fax 専用: 03-3290-5732 ・http://bachchor-tokyo.jp/

**J. S. バッハの子どもたち (20人中、早死10人)**

西暦	年齢	J. S. バッハの経歴 / 出生順 / 男子11人、女子9人	【 】享年	父 (J. S. バッハ) の年齢
1685	0歳	誕生、アイゼナハ		
1707	22歳	マリーア・バルバラ (23歳) と結婚		
1708	23歳	ミュールハウゼン。第1子: 1女=カタリーナ・ドロテア (1708-1774)	【66歳】	23歳-歿後24年存命
1709	24歳	ヴァイマル。		
1710	25歳	第2子: 1男=ヴィルヘルム・フリーデマン (1710-1784)	【74歳】	25歳-歿後34年存命
1711	26歳			
1712	27歳			
1713	28歳	第3子: 2男 (1713-1713) 【0歳】 第4子: 2女 (1713-1713) 【0歳】		28歳 (0年)
1714	29歳	第5子: 3男=カール・フィリップ・エマーヌエル (1714-1788)	【74歳】	29歳-歿後38年存命
1715	30歳	第6子: 4男=ヨハン・ゴットフリート・ベルンハルト (1715-1739)	【24歳】	30歳-54歳 (24年)
1716	31歳			
1717	32歳	ケーテン。		
1718	33歳	第7子: 5男 (1718-1719)	【1歳】	33歳-34歳 (1年)
1719	34歳			
1720	35歳	マリーア・バルバラ死亡 (36歳)		
1721	36歳	アンナ・マクダレーナ (20歳) と再婚		
1722	37歳			
1723	38歳	ライプツィヒ。第8子: 3女 (1723-1726)	【3歳】	38歳-41歳 (3年)
1724	39歳	第9子: 6男=ゴットフリート・ハインリヒ (1724-1763)	【39歳】	39歳-歿後13年存命
1725	40歳	第10子: 7男 (1725-1728)	【3歳】	40歳-42歳 (2年)
1726	41歳	第11子: 4女=エリーザベト・ユリアーネ・フリーデリカ (1726-1781)	【55歳】	41歳-歿後31年存命
1727	42歳	第12子: 8男 (1727-1727)	【0歳】	42歳 (0年)
1728	43歳	第13子: 5女 (1728-1733)	【5歳】	43歳-48歳 (5年)
1729	44歳			
1730	45歳	第14子: 6女 (1730-1730)	【0歳】	45歳 (0年)
1731	46歳	第15子: 7女 (1731-1732)	【1歳】	46歳-47歳 (1年)
1732	47歳	第16子: 9男=ヨハン・クリストフ・フリードリヒ (1732-1795)	【63歳】	47歳-歿後45年存命
1733	48歳	第17子: 10男 (1733-33)	【0歳】	48歳 (0年)
1734	49歳			
1735	50歳	第18子: 11男=ヨハン・クリスティアン (1735-1782)	【47歳】	50歳-歿後32年存命
1736	51歳			
1737	52歳	第19子: 8女=ヨハンナ・カロリーナ (1737-1781)	【44歳】	52歳-歿後31年存命
1738	53歳			
1739	54歳			
1740	55歳			
1741	56歳			
1742	57歳	第20子: 9女=レギーナ・ズザンナ (1742-1809)	【67歳】	57歳-歿後59年存命
1750	65歳	死亡		

マリーア・バルバラ (1684-1720、享年36歳) ……男子5人、女子2人、計7人 出産  
アンナ・マクダレーナ (1701-1760、享年59歳) ……男子6人、女子7人、計13人 出産。夫 (J. S. バッハ) の歿後10年存命

**第114回定期演奏会◆予告**

2016年12月3日(土) 午後2時開演 府中の森芸術劇場ウィーンホール

【日本語演奏】

- ・カンタータ《かたえに 主いませずば》BWV 14
- ・『アンナ・マクダレーナ・バッハの音楽帳』より  
10曲の声楽小品 BWV 508-518 (日本語演奏、本邦初演)
- ・カンタータ《われ 足れり》BWV 82
- ・カンタータ《目覚めよと呼ばわる 物見の声》BWV 140

Sop 光野孝子、Ten 鏡 貴之、Bar 山本悠尋  
Org 草間美也子  
Orch 東京カンタータ室内管弦楽団、Cond 大村恵美子  
○チケット発売開始: 2016年9月予定